

画期的な「綿包製品」を製造するための 自動綿包製造装置の導入

「綿包製品」を製造するにあたり、従来の欠点を解消した画期的な高付加価値綿包製品を開発した。今回、この高付加価値綿包製品を製造する全自動綿包製造装置を導入することにより、医療現場のニーズに対応し、生産性の向上と低コストの実現化を図る。



綿包四辺折機

事業のきっかけや目的

綿包製品の製造は労働集約型のため自社製造ではコストが合わず外注していたが、外注先から事業閉鎖の意向が伝えられ、内製化する必要が出てきた。医療現場のニーズに対応し、生産性の向上と低コスト化を実現するためには、付加価値の高い画期的な製品を開発し製造販売することが必須である。全自動綿包製造装置を導入して製造プロセスの改善を図る。

事業の取り組み内容と成果

自動綿包四辺折り装置の導入により、旧タイプと比較して、①脱脂綿ロール1本（75m）から長さ寸法30cmの綿包製品（250枚）を1名で生産した場合の時間が短縮されるという時間面での成果、②新装置（自動綿包四辺折り装置）は旧装置より1工程（2工程から1工程）短縮されるというコスト面での成果が得られた。

事業化に向けての今後の取り組み

製造工程の機械化により、綿ほつれが出なくなって商品の魅力が大きく上がった。今後はこの機械を使い、脱脂綿・ガーゼという素材にこだわらず高次の商品作りに挑戦していきたい。素材を工夫することで吸収力を上げたり、傷に貼り付きにくくしたりといったことが期待される。



加工ライン



確認作業風景



製造した商品

S・U・Z・U・I・S・H・I・N

「自然・環境・人間」

130年の歴史で培った技術で、脱脂綿を製造。独自の製法により綿の中に油分を多く残し、しっとりとした肌触りを実現しています。また、油の漏出事故等で回収処理に活用される『カクイの油吸着材』は植物系天然繊維を原料に作られており、油の吸着量も多く、廃棄時のゴミの発生量も半減。燃焼時の二酸化炭素発生量も石油系油吸着材の半分以下になり、環境負荷低減に貢献しています。

企業 DATA

明治14年、山形屋綿店として創業。
明治31年、日本で初めて機械による製綿業を始めた。昭和33年には天皇皇后両陛下の御巡視を賜る。昭和42年には「連続精練漂白乾燥工程」を完成させた。もともとの主力商品は布団綿や寝具だったが、平成元年より油吸着材の生産を開始。現在は化粧用の脱脂綿の取り扱いも多い。



本社（企業）外観

事業者	カクイ株式会社
代表者	代表取締役 岩元 正孝
設立年月日	昭和39年12月21日
所在地等	〒890-0081 鹿児島市唐湊四丁目16番1号 TEL 099-254-2131 FAX 099-254-2136 E-mail kakui@kakui.co.jp URL http://www.kakui.co.jp/
資本金額	10,000万円
従業員	172名
業種	繊維工業